

## 好奇心を

失わないことが

“元気の源”

橋 幸夫 東京都荒川区出身

1960年、日立市出身の作曲家・吉田正氏の門下生として、「潮来笠」でデビュー。同曲は爆発的大ヒットとなり、第1回日本レコード大賞新人賞を受賞。1962年、吉永小百合さんとデュエットした「いつでも夢を」、1966年「霧氷」で日本レコード大賞を二度受賞するなど、歌謡史に残る数々のヒット曲を歌う。2012年、吉田正音楽記念館の名誉館長に就任。2019年、ふるさと日立大使に就任。80歳の誕生日を迎えた2023年5月3日、63年にわたる歌手活動を引退。

## 文化人 橋 幸夫 さん

このシリーズでは、大使の皆さんをお一人ずつクローズアップしてご紹介します。今回ご登場いただくのは、長年にわたり歌謡界の大スターとして活躍され、今年5月に歌手活動を引退された橋幸夫さん。生涯の恩師である作曲家・吉田正氏とのエピソードや歌手活動引退後の活動などについて伺いました。

## 歌に興味がなかった少年時代

— 歌手になられたきっかけを教えてください。

意外に思われるかもしれませんが、そもそも僕は歌手になりたくなかったわけではないのです。

僕は9人きょうだいの末っ子で、兄たちの影響を受け、空手や柔道、ボクシングを習っていました。中学校では空手仲間とよく遊んでいたところ、「不良グループと付き合っている」と担任の先生が母に連絡したことがきっかけで、心配した母が兄たちに相談して、僕を作曲家・遠藤実先生の歌謡教室に通わせることにしたんです。

当時、うちの隣の床屋の職人さんが歌謡教室の生徒だったので、歌が大好きな母は、「これだ!」とひらめいたのでしよう。僕は強引にレッスンを受けさせられることになったのですが、母に反発することはできませんでした。これが最初の師、遠藤実先生との出会いと歌手になるきっかけです。

— どのようなきっかけで、吉田正先生の門下生になられたのですか？

高校1年の時、遠藤先生から「君はスターになる素質がある」と言われ、歌手デビューのお話をいただいたのですが、実はこの時点で僕は歌手になる気はありませんでした。でも、遠藤先生も熱心に指導してくださるし、何より母を始め、家族の期待を一身に背負っていましたから、「歌手になりたくない」とは言えず、遠藤先生が専属となっている日本コロムビアのオーディションを受けました。

## 遠藤先生の尽力で吉田門下生に

オーディションでは、村田英雄さんの「蟹工船」と「人生劇場」の2曲を歌ったのですが、ディレクターに「若すぎる」と言われ、不合格になってしまいました。

遠藤先生はカンカンに怒っていましたが、ライバル会社であるはずの日本ビクターへの橋渡しに尽力してくださいました。当時の

ヒットメーカー、作曲家の吉田正先生に僕のことを託してください。たんです。そうして、僕は吉田先生の門下生となり、高校2年生だった17歳のときに「潮来笠」でデビューしました。

### 歌手として全力で駆け抜けてきた

デビュー曲「潮来笠」が大ヒットし、その後の数年はとにかく無我夢中の状態。生活が一変し、高校にもほとんど通学できませんでした。でも、普通の若者には経験できない社会勉強をたくさんさせてもらったと思っています。

自分の意思ではなく、母が引いてくれたレールに乗って歌手になった僕ですが、プロになったからには自分ができる全ての努力をして、63年間一生懸命やってきました。



1



2

80歳の誕生日に開催されたラストコンサート（写真提供：夢グループ）**1**笑顔でファンの声援に応える橋さん **2**歌手活動の思い出を語る橋さん

—— 吉田先生との思い出やエピソードをお聞かせください。

吉田先生は厳しくも優しい方でした。レッスン中は、「譜面に忠実に歌わなきゃダメだ！」と厳しかったですが、「橋君、歌は上手く歌おうと思った瞬間からダメになる。上手く歌わなくてもいいから心で歌えよ」と、いつも声をかけてくれたことが忘れられないです。あとは、20歳になったばかりの頃、京都・祇園に連れて行ってくれてお酒の飲み方なんかも教えてくれたりしましたね（笑）

吉田先生はまさに「人生の師」。若かった僕に芸能界でのマナーや生きることの大切さを教えてくださいました。先生がいなかったら、現在の僕はいなかったと思います。

### 歌手活動引退後は「書画」の道へ

—— 現在、京都芸術大学で学ばれている橋さん。チャレンジし続ける、そのバイタリティーの源は？

昨年、歌手活動を引退すると決断した際に、次の職業を考えないといけないと思ったんです。

そして、新たな人生のスタートとして選んだのが、「書画」の世界。書道は若い頃から続けていたし、小学校の頃から絵を描くことも大好きで、僕がずっとやりたかったことの二つでしたから。僕の書道の先生が京都芸大の講師で、その先生の勧めもあって通信教育部書画コースに入学することにしました。

これまで忙しかったので、大学ではじっくり学んで、興味があることをどんどんやってみたい。好奇心を失わないことが「元気の源」ですね。

—— ふるさと日立大使として、今後はどのような活動をしていきますか？

来年は僕が名誉館長を務める吉田正音楽記念館が開館20周年を迎えるので、例えば吉田メロデーや記念館を題材にした書画を描いてお披露目したらどうかなど、皆さんに喜んでいただけるようなアイデアを練っているところです。

### 日立市を全力で応援！

—— 最後に、日立市民へのメッセージをお願いします。

日立市は自然豊かなまち、ものづくりの分野で世界に知られるまち、そして偉大な作曲家・吉田正を生んだまち……と、こんなに魅力が詰まったところは日本全国でもそうそうない。日立市民の皆さんには、ぜひ誇りを持っていただきたいと思えます。僕も全力で応援していきますよ！



吉田正音楽記念館入館者100万人セレモニー



ふるさと日立大使委嘱式

